

病理診断科

- 1 研修責任者
村田 晋一

研修医へのメッセージ

和歌山医科大学附属病院・病理診断科では一人ひとりの研修医の希望を聞きながら研修プログラムを立てています。基本的には、下記のような日常の病理診断、病理解剖、病理スライドカンファレンスや抄読会および臨床科とのカンファレンスを通して、病理診断を体系的かつ論理的に学ぶことを目指しています。

- 2 一般目標 (GIO)
病理診断学の基礎を習得することにより、臨床病理相関を解し、実臨床に還元する。

- 3 行動目標 (SBOs)
- ① 固定法や臓器の取扱いを学ぶ。
 - ② 臓器や肉眼的観察法や標本切り出しを学ぶ。
 - ③ 病理組織所見の取り方を学ぶ。
 - ④ 病理組織診断を行うための論理的な診断アプローチ法を学ぶ。
 - ⑤ 病理細胞診断を行うための論理的な診断アプローチ法を学ぶ。
 - ⑥ 病理解剖の基本技術（手技、肉眼観察、切り出し、組織観察、解析法など）を学ぶ。
 - ⑦ 病理診断のための様々な手法（特殊染色、免疫組織染色、FISH 法や PCR などの分子病理解析、電子顕微鏡）を学ぶ。
 - ⑧ 臨床とのカンファレンスにおける病理プレゼンテーション法を学ぶ。

- 4 方略 (LS)
- ① 指導体制
科に属する指導医、上級医全てから適宜指導を受ける。
 - ② 病理診断書の作成
頻度の高い疾患の組織診や細胞診の病理診断および病理解剖について、自ら病理診断を行い、それに対して病理専門医の経験が 8 年目以上の病理医が一例一例について一対一の指導（サインアウト）を行う。習熟状況に応じて、診断件数を適宜調整する。
 - ③ プレゼンテーションの実施
臨床科とのカンファレンスにおいて、研修医自身による症例提示を行う。

5 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	・研究検討会 ・病理診断抄読会 ・病理診断	・病理診断	・病理診断 ・病理解剖マクロカンファレンス	・病理診断	・病理診断
午後	・手術検体切り出し ・コンセンサス・ミーティング ・剖検症例臨床病理検討会 (CPC)	・手術検体切り出し ・コンセンサス・ミーティング ・CTTR 若手病理医勉強会	・手術検体切り出し ・コンセンサス・ミーティング	・手術検体切り出し ・コンセンサス・ミーティング	・手術検体切り出し ・コンセンサス・ミーティング

※加えて、週一/月一/不定期に各診療科との病理カンファレンスを行っている。
※適宜、年に十～二十件の病理解剖も実施する。

6 評価方法 (Ev)

① 知識

- ・研修医が自ら行った病理診断に対して、サインアウト時に適宜、診断学について質問を行い、知識の習得状況を確認する。
- ・各カンファレンスにおいて適宜発言を促し、知識の習得状況を確認する。

② 技能

- ・指導医立会のもとで手術検体の切り出しを実施し、習熟状況を確認する。習熟状況を考慮して研修医単独で実施する機会も与え、その場合は切り出し標本のマクロ写真を元に議論を行う。

③ 態度

- ・指導医、上級医及び検査技師から広く意見を聴取し、医師として相応しい振る舞いが出来ているかを随時確認する。